

創造の世界

DVD 全3巻・別冊1

大村はま × 倉澤栄吉
対談の記録

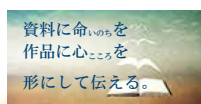


「教え」と「学び」の本義を
泉のごとく語り尽くした
広くて深い知見に浸る。

大村はま

ペスタロッチ賞に輝く不世出の教育者
その素顔の語りを完全収録 永久保存版

■対談完全活字化（別冊）



www.ozorasha.co.jp

学術資料出版
大空社出版

このDVDは1996年に制作されたVHSビデオをDVD化し、対談を活字化したものです（大空社2009年11月刊）。

DVD

大村はま 創造の世界

刊行の言葉

52年間の教職生活を通じて、
いま語り得る
大村先生の創造の足跡。



大村はま先生

「教える」とはどういうことか。

「子どもたちが学ぶ」とはどういう

ことか。不世出の教育者といわれ

る大村はま先生にきこう。なまの

声に耳を傾けよう、教師も父母も。

「大村はまの世界」は、広くて深い。

戦前戦後を通して、国語の教師

として、教育者として、人間とし

て、常に、「生きていく力」をふ

りしぼって、子どもの先頭を歩ん

で来られた大村先生と

対面しよう。生きる力

は実践から生まれる。



倉澤——大村さんを波多野さんは努力の人と評している訳ですが、ご感想をいただけますでしょうか。

大村——そのときそのときにとにかくやれることをやってきただけです。後で考えて自分でもいい工夫のようだったことはたいてい計画したものでもないんです。教科書にあるというものでもなくて、授業している最中に何か困ることがありますね。

あまりよくいかないうことがあったり、もつといいことをしなければ、という気持ちになることがあります。そのときに、子どもの顔を見て何とかしなくては、と、大急ぎ、いつのまにか、その子のところへ行っていたということがあって、何事も計画した訳ではありません。

「大村はまの世界」は、

●大村はま 略年譜

明治39年（一九〇六）

6月2日、横浜市に生まれる。

大正8年（一九一九）13歳

共立女学校に入学。翌年、捜真女学校に転校。国語科川島治子との出会いが「国語」を「好き」以上の離れられないものにした。

オルガンを習う。

大正14年（一九二五）19歳

東京女子大学に入学。この頃から芦田恵之助の著作に親しむ。〈国語教師になる心は、ごく自然にきまつていた。〉

昭和3年（一九二八）22歳

諏訪高女に赴任。

昭和5年（一九三〇）24歳

はじめて芦田恵之助に会い、以後の数年間、しばしば教えを受ける。また、学習記録指導をはじめたのもこの頃。

昭和13年（一九三八）32歳

東京府立第八高女に転ずる。

昭和22年（一九四七）41歳

新制中学発足。

〈新しい時代のしあわせのために何かしたいと考え〉深川第一中学校へ赴任。

生涯を「教室実践」に
捧げ来った先覚者の姿――

時には激しく時に静かに

語ってくれる一言一句が、私どもの胸を突く。――二十世紀から次代へ呼びかける、大村先生の深い思想。実践から湧き出、蓄積され、凝固したもの。生徒と共に学び、生徒の中に飛込んで、いつの間にか子どもたちは、本気になって「学ぶ人」になってしまっている。大村先生の語りの中に、子どもの学びのさまが浮かんでくる。私どもは、このDVDに依って、教えること、学ぶことの本義を各々の心に刻むことができる。

この対談は、「大村はまの世界」の、いわば〈総集編〉であり、終着点で同時に出発点でもある。

倉澤栄吉

広くて深い。

そのとき、自然に、いつのまにか思いついたことをやったんですね。それが後で考えた時にいいことだったという風なことが非常に多いです。机の上でこういうふうにとプランを立てる訳ですが、プランを生かすときには、前もって、これと決めていたのではなくて、そのとき、力いっぱい夢中でやっている、いつか胸に貯えられていたものが出てきてくれたのです。やむにやまれず自分のできることをやってきたような気がします。

倉澤――つまり夢中だったということですね。自分を忘れてね。



生前の大村はまの

声と姿を 通して

温かく、厳しい
教育者としての生き方が
身近に迫ってきます。



倉澤栄吉先生
(1911～2015)

戦後の混乱のなから単元学習、グループ学習などが生まれた。これらが発展して今日の「大村はま国語教室」に至る。

昭和24年（一九四九）43歳

目黒区立第八中学校に転任。多くの研究授業を行ない、個人差に応ずる指導など豊かな収穫を得た。この頃、文部省の学習指導要領委員会に参加。

昭和31年（一九五六）50歳

文海中学に転任。作文指導のための「書き出し文の研究」がはじまる。この頃、西尾実らと共に「中学国語」を編集。

昭和35年（一九六〇）54歳

石川台中学校に転任。

昭和38年（一九六三）57歳

ペスタロッチ賞を受賞。

昭和47年（一九七二）66歳

実践研究発表会がはじまる。

昭和55年（一九八〇）74歳

52年間の教師生活から退職。

昭和57年（一九八二）76歳

勲五等瑞宝章を授かる。

平成13年（二〇〇二）95歳

「大村はま文庫」ができる。

平成16年（二〇〇四）98歳

「大村はま白寿記念講演会」で講演。

平成17年（二〇〇五）99歳

4月17日、逝去。

過去・現在、そして、これからの教育に不可欠の指針。

新鮮さ、おどおどした感じ、不安、おののき、謙虚さといったものがとても大事です。それは子どもとの距離を少なくするための工夫です。



よく聞ける子どもにしたい。それなら面白い話をたくさん用意していることです。

もう少し工夫してみなさい。姿勢よくしなさい。というような事は教師が言うべきではありません。

何々をしなさいと言わずにいつのまにかそうさせてしまえてこそ教師。

教師は一つの職業であって人を育てる職業ですから、一つの職業としての特色ある技術を持っていなければいけない。

塩かずのこが塩につけて塩をとるように



1 「教える」ということ 約36分

- ・子どもと向かいあって
- ・学力をつけるとは
- ・子どもを見る
- ・教科指導と生活指導

2 「学ぶ」ということ 約46分

- ・無からの出発
- ・子どもは学ぶことを求めている
- ・さまざまな単元
- ・情意知

3 「生きる」とは 約28分

- ・旅と花と
- ・育てる
- ・児童文学
- ・言語文化

4 戦後教育の歩み 約35分

- ・輸入品ではない
- ・教科書を使わない

全篇にほとばしる 教育者としての

淋しさは淋しい風景でいやされます。



話しことばは、
そのひびきの中にこそ、
その人の心をきく。



「今日はどの鉢に……。」

この鉢に」

草花の鉢植の水やり。

同じ草花でも

鉢の中の土の質も量も

同じでない。

一人一人の

生徒にあった教材を

探すことが大事です。

朗読は朗読者の

自己表現ではなく、

作品を表現するものです。

子供にとって何が幸せといって
一人でしっかり生きていける人間に
育てられることぐらい
幸せなことはないと思います。

心に深く 刻みつけられる
印象的な ことばのかずかず。

5 話しことばと教育

約43分

- ・教材の鮮度
- ・子どもの心のおののきを共有する
- ・読書人の育成
- ・子どもに語って聞かせること

6 コミュニケーションの時代

約28分

- ・問答から対話へ
- ・音読朗読
- ・聴覚空間
- ・結果と経過
- ・未来志向

7 とこしえの扉をたたく旅

約39分

- ・恩師川島治子先生
- ・「なさい」は禁句
- ・自己表現の底力
- ・頭を使わせる
- ・大村はまの宝物

8 21世紀に向けて

約38分

- ・大村はまのきびしい光
- ・大村精神をつらぬく
- ・「教える」ということ
- ・教える専門家としての教師へ提言

大村はま先生の「生」の
「話しことば」に接する

残された唯一の機会

あの場面、この場面、その中に浮かぶ、師の、友の、教え子の顔、姿、ひびき合う声、ことば。思い出というよりも、なまなましく、そのまま心に返ってきて、そのなかで、たくさんのお話をしていました。

人生の終わり近く、このような時間をいただきましたことをうれしく、ありがたく、このあとにどんなことばを続けてこの気持ちを表したらよいでしょうか。ただ感謝でございます。

——収録を終えて **大村はま**



**大村はま×倉澤栄吉
対談の記録**

(平成8年4月・9月・11月収録)

●大村はま 90歳時の収録

無意識の教育に迫る

波多野完治

大村はま先生は、「生れながらの」といつてもよいくらいの優れた教育者であり、また非常な勉強家で、九十歳を越したこんにちでも、寝る間もおしんで、研究工夫をつづけている。

だが、それだけではない。氏は言わば、授業の天才である。指一本をうごかすだけで、教室の子どもたちがさまざまな反応をおこしてくる。この指一本の運動、足の一步のあるき方は、本人にも気づかれないことで、したがって全集十六巻を精読してもわからない。今度出来たビデオ八巻(DVD3巻)の非常な強味で、これによってわれわれは、大村先生の無意識の教育にまで迫ることが出来る。大村はま研究は、いつか教育の主流となることが予想されるが、こんど出されるビデオ(DVD)はその主要対象として、日本教育の宝の一部となるに相違ない。(お茶の水女子大学名誉教授)

夢かと思う喜び

先生に学びつづけられるしあわせ

野地潤家

大村はま先生の対談、語りおろし、講演記録によるご著書は、既に十冊を超えている。それらは先生の全集「大村はま国語教室」全十六巻と共に、「教育実践」「実践即研究」への今世紀最高の指針を藏している。

今回さらにビデオ「大村はま 創造の世界」全八巻(DVD3巻)が完成した。夢かと思う喜びである。融通無碍に語られる先生のお話に学ばせていただくしあわせは何物にも替えがたい。一途にひたすら学びつづけたい。(元鳴門教育大学学長・広島大学名誉教授)

●**推薦します**

- 収録を終えて 倉澤栄吉、大村はま
- 全対談完全活字化 中山厚子
- 約290分にわたり語り尽くした発言すべてをDVD化にあたり
 へ初めて文字にへ起こした。文字化で見えてくることがある。先生
 のことばのさらなる味読と内容確認に役立てられる。また、理解
 を助ける注を付した。
- 大村はまアルバムとことば
- 年譜・著述目録

一所懸命新しい職場で先生・先生と言われて、憧れの先生になって可愛い子どもたちに取り巻かれて、それを見ながら考えている自分の覚悟、そして自分がどうして先生になったかと考えてみるとその願いが叶っているような気がするでしょう。可愛い子どもたちに囲まれて、憧れの先生と呼ばれているんですし、ですが私はそのとき何もその方をいけいないなんて思いませんけれども、そんなものじゃないのじゃないかと思うんです。いい人間なんというものはすべての人がいい人間でなければ困るので、そんなこと問題になりません。先生になる資格の一つに数えてもらっちゃ困るんです。それから熱心なんというのも、みんな熱心にやってくれなければ困ります。どの職業に就いたって。私は熱心に勉強したり熱心に仕事できますというのを聞くとおかしい気がします。更に困るのは子どもが好き、これは一番最もそうで子どもが好きで先生になったんだと、子どもが好きで先生がいい、子どもを可愛がつくれるだろう、そう思いますからそれも普通だと思えますが、私はそういうことは当たり前で子どもが可愛くないなんてただの大人じゃありませんで、一人前の人間とは思いませんから、そんなことみんな教師になった動機に平気な顔して言っていることじゃないと思います。

教師は一つの職業であって人を育てる職業ですから、一つの職業としての特色ある技術を持つていなければいけない。それは単なるちよつとしたいわゆる技術という意味ではありません。だけれど人を導く技術を持つていなければ、お話一つしても先生のお話は子どものお話の力を伸ばすのでなければ困るんです。ですから、教師特有のものがなければいけないと

大村はま 創造の世界

DVD 全3巻＋別冊（対談全活字化） [大空社 2009年刊行]

構成 倉澤栄吉 企画・制作 大空社 制作協力 NHK情報ネットワーク

※本DVDは、平成8年発売のビデオ版（全8巻）を基に全編を収録したものです。

「話しことばは、そのひびきの中にこそ、
その人の心をきく。」

大村はま先生にきこう。なまの声に耳を傾けよう、教師も父母も。

大村はま 創造の世界

DVD 全3巻＋別冊(対談全活字化)

[大空社 2009 年刊行]

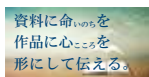


(別冊)



ISBN978-4-283-00625-6

■価格(15,000 円＋税)〈分売不可〉



学術資料出版
大空社出版
www.ozorasha.co.jp

eigyo@ozorasha.co.jp
東京都北区中十条 4-3-2 (〒114-0032)
TEL:03-5963-4451 FAX:03-5963-4461

●
お
取
扱
い